

# 広報 いまり

昭和29年8月19日  
第3種郵便物認可

毎月1日発行 定価1部24円 昭和55年12月1日 伊万里市役所総務部秘書課発行 No. 322



ゆく年を惜しみ、くる年に夢をふくらませて  
モチつきが行われています。

そこには、ほのかな新春の香りが、そっと近  
づいていました。

(写真は、伊中文化祭でモチつきをする子供たちとお年寄り)

55

12月

# 休暇センターの総合基本計画決まる

国見台公園周辺に建設される「厚生年金休暇センター」の総合基本計画が決まりました。

建設計画は、120,000㎡の広大な敷地に、100人収容の宿泊施設を中核に研修・集会施設や体育館・プール・運動公園など

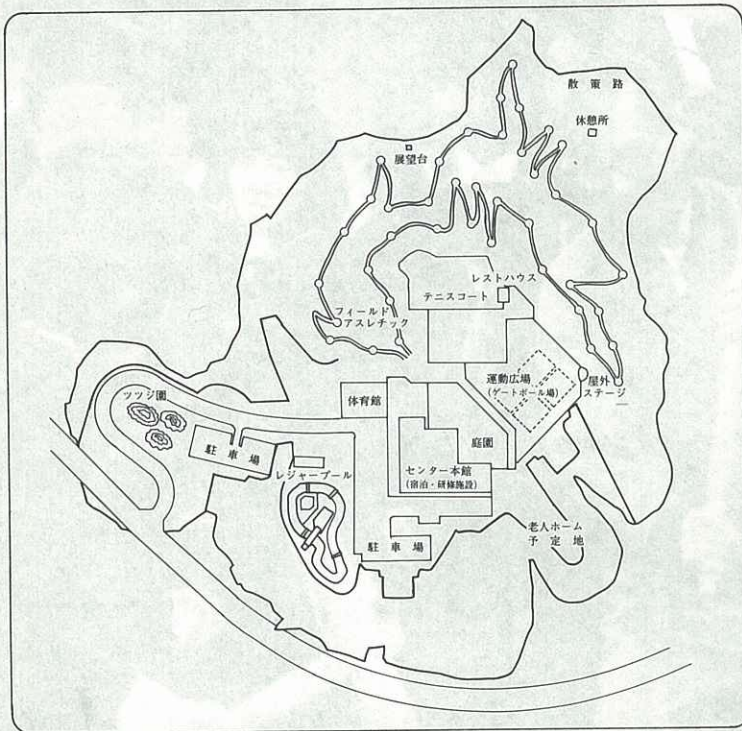
の体育施設、レストラン・見晴台・遊歩道などの施設を整備するものです。

この休暇センターは、近く高齢化社会の対応策の一つとして厚生省社会保険庁が事業主体で建設するもので、老人と子、

孫の3世代の地域住民が余暇を楽しく過ごし、快適な生活が送られる総合福祉施設として整備されます。

完成は58年3月の予定です。

- ・55～56年度 用地造成
- ・56～57年度 建物建設
- ・58年4月 事業開始（予定）



▲厚生年金休暇センターの総合基本計画施設配置図

## 休暇センターの主な施設

宿泊施設（100人収容）	1,150㎡
研修施設（5室）	325㎡
集会施設（3室）	600㎡
レストラン（120人収容）	180㎡
ティールounge	140㎡
浴室（大、中、身障者用）	432㎡
サウナ（男女各1室）	13㎡
陶芸施設	242㎡
体育施設（バスケット・バレー）	930㎡
運動公園（芝張）ゲートボール場共用テニスコート（6面）	
ツツジ植込斜面	
見晴台	
パーズサンクチュアリー（野鳥の森）	
プール（流水プール、幼児用プール）	
子供広場 トリム	
フィールドアスレチック	
散策路、庭園、歩行者専用路	
駐車場（100台収容）	
管理事務施設	283㎡

いかに邪魔しているかはつきりと知らされた。開発といえはさすがに外にばかり目を向けるが、先ず自分のふるさとを十分に知ること、そして本当にふるさとがわかればそこに無限の材料があること。

また観光にしても従来の観光資源の考え方が問題で、どんなものでも資源になり岡山県西栗倉の山の中の国民宿舎は職員のマナーが日本一というので評判をとり、押すな押すな盛況で、何が観光資源かを考えさせるいい事例というのである。

上原先生の自前のエネルギーではないが、私共も自分の力で回転のできる自前の財源で伊万里市の自立を計ることが大切で、そのためには自分の町をもっとよく知って、地域づくりは一面商品づくりともいわれ目標が必要であるから、自分の町の材料でその目標をくり出さねばならない。

地域がよくならない結局は一人ひとりがよくならないから、地域づくりには力をあわせることが肝要で「愛ラブいまり」の手づくりとは、また手をつなぐことでもあると思う。（竹）

# 13人と1団体を表彰

## 教育・文化・社会活動の貢献者に

市教育委員会は11月17日に教育、文化、社会活動面で貢献した13人と1団体を表彰しました。

被表彰者は、郷土の地質、地名の研究で知られ、文化財調査保護に尽力された原口静雄さんをはじめ、市内コーラスの育成に努め、交響詩伊万里の混声合唱団の指導に尽くされた池田末子さんや鷹尾初子さん、婦人会活動を通じ地域の発展に努められた松瀬フヂさんや黒川絹枝さんら、教育各分野にわたって貢献された次の方々です。(敬称略)

### ◎学校教育関係

児童の教育指導と本市教育の推進に尽力

- ▷江口和夫(60歳) 南波多町
- ▷古川次男(59歳) 松浦町



▲国見有料道路の料金徴収所

- ▷幸松福三(58歳) 山代町
  - ▷前田キヌ(55歳) 立花町
  - ▷小川ミチ子(55歳) 立花町
  - ▷故、江利禎起(49歳) 立花町
- ◎社会教育関係
- 社会教育の基盤づくりに貢献
- ▷高添門司(82歳) 大川町
  - ▷菊花づくりの普及、菊花会結成
  - ▷石牧一(71歳) 立花町
- 文化振興に貢献(文化財)
- ▷原口静雄(68歳) 松浦町
  - ▷池田末子(66歳) 新天町
  - ▷鷹尾初子(66歳) 二里町



婦人活動の充実に貢献

- ▷黒川絹枝(65歳) 山代町
  - ▷松瀬フヂ(63歳) 二里町
- 短詩型文学会の発展に貢献
- ▷伊万里ホトトギス会

## 3周年迎えた国見有料道路

### 通過車両193万台を突破

伊万里市と佐世保市を結ぶ国見有料道路が開通して、11月30日で3周年を迎えました。

これまでの通過車両は10月末日までで約193万台、営業収入は約5億4,000万円ありました。

秋は観光シーズンで通過車両も多く、10月だけで6万2,629台で、伊万里くんちは約6,800

台が通っており、伊万里、佐世保圏の結びつきを深めていることがわかります。

この有料道路は、佐賀と長崎両県が約50億円と4年の歳月をかけて、長さ6.8km(トンネル=955m)を建設、52年11月30日に開通したもので、産業・観光道路として利用されています。

の観念が、ふるさとづくり

先生の手づくりのふるさと

先生の手づくりのふるさと

先生の手づくりのふるさと

先生の手づくりのふるさと

先生の手づくりのふるさと



# 明るいお正月を迎えるために



「善意の灯を高く!!」

## 歳末助け合い運動

「赤い羽根」の共同募金運動(10月～12月)の一環として、12月に限り歳末助け合い運動が行われます。

この運動は民生委員や社会福祉協議会、婦人会などを中心に行われる地域単位の助け合いとNHKが放送を通じて全国に呼びかけるものとの二通りの方法で行われ、生活に困っておられる世帯や、災害の被災家庭、一人暮らしの老人あるいは社会福祉施設利用者に配分されます。

今年も是非、あなたの「善意の灯」を恵まれない人々にお寄せください。

## 12月の市民会館行事予定

- ・毎週金曜日 9時～15時 運転免許証更新講習会
- ・6日(土) 13時～18時 佐教連「講演会」
- ・9日(火) 8時～14時 小型船舶免許講習・試験
- ・13日(土) 16時～22時 連合青年団「文化祭・前夜祭」
- ・14日(日) 9時～17時 連合青年団「文化祭」
- ・25日(木) 9時～12時 伊万里市教育研究大会

## 防犯の心得

12月は空き巣ねらいやひったくり犯の「かせぎ時」です。

ボーナスのシーズンでもあり何かと大金が動き、年の瀬のあわただしさで家を空ける事も多くなります。

ほんのちょっとした買物でも油断大敵。きちんとカギをかけて外出しましょう。

また、ひったくりにねらわれやすいのが女性や老人です。

多額の現金を持ち歩くときは特に注意しましょう。

明るい正月をお迎ください。



## 野田さんが2席入賞

### 牛乳利用料理コンクール九州大会で

牛乳利用料理コンクール九州地区大会(主催=全国牛乳普及協会)で、栄町の野田京子さん(49歳)の『枝豆入り萌黄(もえぎ)豆腐』が、みごと優秀賞第2席に入賞しました。

この大会は、九州各県から予選で選ばれた14人が出場し、調理実習の中で審査が行われたものです。

野田さんは「手近にある材料で作りやすく、栄養価に富んだものをというねらいで作りました」と話しておられました。

皆さんの食卓にも、おひとついかがですか。

市の人口	
11月1日現在	
総人口	61,272人 (-9)
男	29,073人 (-21)
女	32,199人 (+12)
世帯数	16,708 (+300)
市民課調べ、( )は前月比	

## 保健センターからのお知らせ

11月15日号でお知らせした子宮ガン検診とツ反・BCG接種に次のような変更があります。

〔子宮ガン検診〕

対象地区で牧島地区を伊万里町・大川内町に変更。

〔ツ反・BCG接種〕

時間を13時30分～14時30分に

【材料=4～5人分】

枝豆150g ぐず粉100g  
牛乳4～5カップ 塩

【作り方】

- ①枝豆は塩ゆでして中の実だけ取り出しうす皮もむく。
  - ②ミキサーで粗く砕いて、すりばちでなめらかになるまでよくする。
  - ③ぐず粉を②に入れ、牛乳を加えてすりのばし、塩を入れる。
  - ④なべに③を移して中央でよく混ぜ合わせ、弾力ができるまで10分～15分ぐらい練り上げる。
  - ⑤流し箱に流し入れて、冷水につけ固まるまで冷やす。
  - ⑥ぬらした包丁で食べやすい大きさに切る。
- ※砂糖じょう油、出し汁、酢じょう油、きな粉でまぶしてもよい。

## 健康づくりに体力テストを

市教育委員会では、このほど体力テストモデル地域として指定されている松浦町で、体育指導委員や町体育関係者を対象に体力テストの必要性和実技についての講習会を行いました。

これは社会総健康運動の一環として、体力テストにより市民が各自の体力を知り、その運動処方方を指導していくための指導者講習会を行ったものです。

松浦町はスポーツ健康の町をキャッチフレーズに健康づくりに取り組んでおり、体力テストによって病気の少ない長寿の町づくりをめざしています。

丸田体育保健課長は「体力テストは、体力に適したスポーツによって健康維持増進をはかる

ことがねらいで、無理のない楽しいスポーツで10歳若がえりを目ざしています」と話していました。



▲体力テスト実技講習会11/19



10月

貿易実績は11億3,643万円  
で前月比5億5,447万円の減。

【輸出】 実績なし

【輸入】 11億3,643万円

【般舶の入港】 15隻

(日本船2、外国船13)

【寄港地上陸許可者数】

300人(フィリピン114人  
中国99人、韓国25人、イン  
ドネシア59人)英国2人、  
マレーシア1人)

## 市の人口初めて増える

国勢調査人口 61,248人

国勢調査のたびに減少していた市の人口が、今回実施された国勢調査で初めて増加したことが明らかになりました。

国勢調査は5年ごとに行われる国の最も重要な調査の一つですが、昭和30年の調査で81,625人だった市の人口が調査のたびに減少し、前回昭和50年の調査では60,913人に減りました。

しかし、今年10月1日の調査では61,248人と、わずかではありますが増加し、市制施行後の国勢調査では初めて増加に転じました。

今回の調査にご協力いただいた355人の調査員さんをはじめ深い理解と協力をいただきました皆さんどうもありがとうございました。

### 水道工事に

ご協力ください

市水道部は古くなった配水管の若返り工事を行います。

道路を掘削しますので、通行や騒音などで皆さんにご迷惑をおかけしますが、工事にご協力ください。

また、工事によって断水する場合は前日に広報車などでお知らせしますのでご注意ください。

#### ▲施工箇所

- ・国道204号
- ・木須崎バス停～築港新道入口
- ・市道延命橋線
- ・延命橋～小松薬局前

#### ▲工事期間

55年12月5日～56年2月20日

町名	昭和55年(今回)		昭和50年(前回)		対50年比	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
伊万里市計	61,248	16,693	60,913	15,748	335	945
伊万里町	23,361	6,614	21,645	5,821	1,716	793
黒川町	3,991	1,052	4,227	920	△236	132
波多津町	3,421	771	3,594	789	△173	△18
南波多町	3,338	708	3,387	706	△49	2
大川町	3,683	928	3,808	936	△125	△8
松浦町	3,466	813	3,660	826	△194	△13
二里町	5,869	1,649	6,016	1,609	△147	40
東山代町	5,797	1,660	5,795	1,606	2	△6
山代町	8,322	2,498	8,781	2,535	△459	△37

△印は減少

## あなたと考える

1世帯に1台の割合で乗用車を持ち、2.2人に1人が運転——国民皆免許時代といわれる一方、酒が日常広く親しまれ、飲酒運転もあいかわず多く、死亡などの重大な交通事故に直結しています。

なぜ飲酒運転は追放できないのでしょうか。今一度あなたと飲酒運転の撲滅について考えてみましょう。

## 追放は市民総ぐるみで

クルマは私たちの生活に、より一層身近なものとなりました。反面、交通事故は増大しており特に飲酒運転はいつまでたっても後を絶ちません。

市内で酒酔い・酒気帯び運転で検挙されたものは、今年1月から10月末で109人います。

これは前年の同じ時期に比べると8人減となっていますが、撲滅するにはほど遠いものです。

飲酒運転を追放するためには「飲酒運転3ない運動」▷車を運転する人は酒を飲まない。

### 地区別飲酒運転検挙者数

(昭55.10.31現在 伊万里警察署調)

地区	1月～9月	10月	累計
伊万里	5	0	5
大坪	4	1	5
牧島	9	1	10
立花	7	0	7
大川内	7	0	7
黒川	8	0	8
波多津	3	1	4
南波多	4	1	5
大川	2	2	4
松浦	4	1	5
二里	7	0	7
東山代	5	1	6
山代	9	0	9
(市外)	18	9	27
計	92人	17人	109人

▷車の運転をする人には酒を飲ませない。▷酒を飲んだ人には車を運転させない——を徹底して守ることが大切です。

一人ひとりをもっと自覚して飲酒運転の防止に努めないと撲滅はできません。

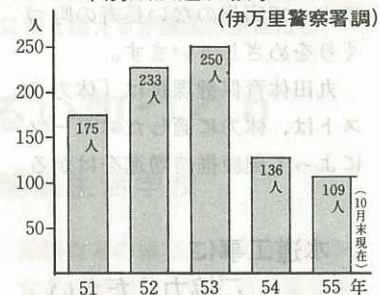
市民みんなで飲酒運転の追放に立ち上がりましょう。

## いつできる飲



年別飲酒運転検挙者

(伊万里警察署調)



## 事故多発警報を発令宣言

### 相変わらず多い飲酒運転

伊万里市交通対策協議会は10月23日に「交通事故多発警報の発令宣言」を行いました。

これは市内における交通事故の発生・死者・傷者数が、近年最悪を記録した昨年に緊迫する状況となったからです。

発令宣言時の10月21日までの交通事故発生状況は226件で、うち7人が死亡、304人が負傷しています。

また、飲酒運転検挙者数は、

105人で、このほか検挙にはいたらず誓約書にとどまった人が、なんと3.5倍の370人もいます。

ドライバーとしての基本的な事柄をきちんと実践することが「事故のない明るい社会」を築くことになるのです。

12月は、1年のうちで最も交通事故の多い月です。特に年末は酒を飲む機会が多くなりますので、十分注意して事故のないように努めましょう。

# 酒 運 転 の 撲 滅

キャンペーン  
シリーズ No.27

## 事故のない社会を

昨年の交通死亡事故抑止非常事態宣言に引き続き、今年もまた「交通事故多発警報の発令宣言」が行われました。市内での交通事故はあいかわらず多発しており、特に飲酒運転は後を絶たず事態は一向に好転しそうもありません。一人ひとりが自覚し安心して生活ができる社会を築きたいものです。

### 酒は判断力を鈍らせる

交通指導員 立花町渚 山口哲二さん



「ちょっと一杯ぐらい……」の気のゆるみが重大な事故を起こしています。

アルコールは、自分は大丈夫だと思っても理性をマヒさせ判断力を鈍らせるところに、その怖さがあります。

12月は1年のうちで最も交通事故の多い月です。年末はドライバーも歩行者も気分的に何かとあわただしくなり、気ぜわしさとイライラが高じ、とすればスピードの出し過ぎや無理な

追い越しなど違反運転が目立つようになります。なかでも、この時期にふえるのが飲酒運転による事故です。

酒を飲む機会が多くなる年末年始は「飲んだら乗るな」「乗るなら飲むな」に徹し、十分に注意してほしいものです。

### 酒気帯び運転はやめて

スナック経営 二里町八谷 中野喜与子さん



商売上、飲酒運転にはたいへん気をもんでいます。

お店にこられるお客さんで、車とわかったら一切お酒はあげていません。お飲みになるならキーを預りますと呼びかけています。最近では、お客さん自身が車ですからと割り切ってジュースなどを飲んでおられます。それにしても飲酒運転が後を絶たないのはどうしてでしょう。

### 知っておきたいこと

- ▲ 酒酔い運転による死亡率は、平均の3.2倍という高率です。
- ▲ 事故は、土曜日と日曜日に多く発生しています。
- ▲ 1歳から9歳までの子供の交通事故（歩行者被害）のうち半数は3歳から5歳までです。
- ▲ シートベルトの着用で死亡事故も10人のうち9人は助かるといわれます。
- ▲ 車はすぐにとまらない  
(かわいた舗装道路で)



# ありがとう あなたの善意

## 心あたたまる町の話

～その23～

### 手作りのクッキー贈る

伊農高 向陽園で奉仕作業

若者たちが養護老人ホームに手作りのクッキーや家から持ち寄った農産物をプレゼントしたり、花壇づくりや清掃の奉仕活動に励んでいます。

この若者たちは、伊万里農林高校の農業クラブのメンバー40人の皆さんで、ボランティア活動として向陽園の慰問を昨年から行っているものです。

生徒たちは、花壇の草取りやフラワーポットに持参した苗を植えたり、窓ふきや下水溝の掃除などに汗を流しており、また歌や踊りなどの演芸会、肩たたき、ゲートボールの交換試合などの慰問をして、お年寄りの方からたいへん感謝されています。

同クラブ顧問の高田清彦教諭

は「奉仕活動によって生徒たちも人間としての生き方、いたわりの精神を実践で学びとっています」と、その成果を喜んでおられました。



▲フラワーポットに苗を植える伊農高の生徒たち

### ゴミのない明るい町づくり

美化活動に励む明星生活学校

ゴミのない明るい町づくりをめざして活発な活動をしているグループがあります。

このグループは、東山代町の明星生活学校（立石頼子委員長）のメンバー60人の皆さんで、毎月1日を「婦人会清掃の日」と定め、町内の美化活動に努めています。特に、これまで廃品業者が回収しないため放置されている油、酢、

洋酒などの雑びんやアルミカンなどの処理について対話集会を行い検討していましたが、幸い佐賀の業者が引き取ることがわかり、町内あげて一掃する運動を展開しました。

この運動で得た資金は美化活動として、くずかごなどの設置にあてられています。

東山代町は生活学校を柱に婦人会、町民が一体となって「ゴミのない明るい町づくり運動」が活発になされており、委員長の立石頼子さんは「皆さんの協力でできました。これからは農薬、化粧品、葉びんや空かんなど再利用できないものについても再利用化をめざしたい」と話しておられました。



▲廃品のびんを回収する明星生活学校の皆さん





▲九州交響楽団演奏会(11/8)

交響詩伊万里の製作1周年を記念して行われた演奏会は、1,200人の聴衆でいっぱいになりました。



▲市民防火のつどい(11/1)

市民防火の日に行われた「防火のつどい」には楽しい催しものがいっぱい。子供に人気があるのはハシゴ車の試乗でした。



▲全国青年祭で優秀賞

県代表として、市から29名が参加した全国青年祭で、大川町団女子部が生活文化部門で優秀賞に輝きました。

いま伊万里で



▲ミニバイクの安全運転講習会(11/9)

白バイによる指導のほか、安全運転競技会も行われました。

▶伊万里津の町家展(11/10、12/10)  
商人の町として栄えた「港町伊万里」の歴史を知る貴重な資料が展示されており、好評を博しています。



▲立川炭鉱閉山10周年記念のつどい(11/2)

炭鉱閉山後全国に散った山の仲間が10年ぶりに再会し、旧交を温めあいました。

# 松尾さん(瀬戸町築港)が知事賞

## 身障者趣味の作品展で



◀受賞を喜ぶ松尾さんと市役所に展示された「たぬき」

第7回佐賀県身体障害者趣味の作品展で瀬戸町築港の松尾愛司さん(75歳)が出品された、たぬきの木彫りがみごと知事賞に選ばれました。

この作品展は絵や工芸、和洋裁などを趣味に持つ方の作品を展示審査するもので、松尾さんの作品は、今回出品された182点の中から1席の知事賞を獲得しました。

### 〒ポス〒 年末の郵便はお早めに

12月は郵便物が一番混雑する時期です。小包や年賀状は早めに準備し、期限までに差し出すようにしましょう。

◆小包は12月15日までに差し出しが遅くなると、年賀状の処理と重なり、年内配達ができなくなります。

◆年賀状は12月20日までに年賀状の受け付けは12月1日から20日までです。あまり遅くなると元旦に配達できなくなることもあります。

◆あて先は詳しく正確に団地やアパートの場合は「○棟○号」「○○アパート○号室」と完全に。

松尾さんは目の不自由にもめげず、仕事のあいまを見つけてはコツコツと40年以上も好きな木彫を続けておられるということで、これまでも老人趣味の作品展で知事賞をとられた経験をお持ちです。

## 人権週間

12月4日～10日

- 人権の共存——互いに相手の立場を考えて豊かな人間関係をつくりましょう。
- 部落差別をなくしましょう
- 婦人の地位を高めましょう

### 踏切横断にご注意

年末年始はとかく気ぜわしくなり、交通事故や踏切事故が多発しがちです。

- 踏切横断のときは一時停止を確実に励行しましょう。
- 鉄道の付近では子供が遊ばないように気を付けましょう。



同和教育シリーズNo12

## 人権週間と同和教育

同和教育地域推進員 野村 壽 男

憲法第14条に「すべて国民は、法の下に平等であって、人権、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」と規定しています。

そして、すべての国民に対し。

- ① 健康で文化的な生活を営む権利
- ② 教育の機会均等
- ③ 居住、移転及び職業選択の自由
- ④ 婚姻の自由

などを基本的人権として保障しています。

これらは、人類が多年にわたって努力獲得した成果であって、私達が不断の努力によって守り続けていかなければならないものであります。

然し、私達は平素人権に対する意識が薄く、自分の人権が犯されてい

るのさえ見過ごしてしまう程で、これでは人権が保障されるものではありません。また、人間が人間として尊重されるためには、自分の人権だけでなく他人の人権も尊重せねばなりません。

人権を守っていくための第一歩は、まず、身のまわりにある不当な差別、偏見、不合理に気づくようになることです。気づいたならこれを避けて通るのでなく、これを憤り、敢然とこれに立ち向っていく勇気が必要であります。

このようなものの見方、考え方、行動のしかたこそ、同和教育のねらいとするところであり、また同和教育解決になくなくてはならない心である、人権週間に当り思うことです。

# 保育園の入園手続

## あなたの技術を福祉に 陶工指導員募集

来年度の保育園入園希望者受け付けを次のとおり行います。  
申請書は12月22日から入園を希望される保育園で交付しますので必要書類を添えて提出してください。

### ▲受付期間

56年1月6日～1月17日



### ▲入園資格

保護者が仕事や病気などのため保育が出来ないと認められる家庭の幼児。

### ▲提出書類

- ・申請書 〇住民票謄本（昭和56年1月1日以降発行のもの）
- ・源泉徴収票（昭和55年分、とれない方は勤務証明書）
- ・医師の診断書（保護者が病気か出産の場合）

※詳細は市福祉事務所保育園係  
（☎ 2111 内線 258）へ。

精神薄弱者施設「蓮の実園」「蓮の実団地」では、入園者への職業訓練指導員として陶工経験5年以上、または同程度の技術を有する方の募集をしています。

応募される方は12月15日までに必着するように履歴書（写真貼付）をお送りください。

〔送付先〕社会福祉法人上横山保育会「蓮の実団地」総務課  
（〒834 八女郡上揚町大字横山4000番地 ☎ 094354-2233）

- ・森野和子（亡夫富士男 波多津町井野尾）
- ・坂本寿一（亡父寿 大坪町六仙寺）
- ・田中輝人（亡父儀左エ門 波多津町筒井）
- ・前田君枝（亡夫久次 山代町久原一区）
- ・木須勝己（亡父勝太郎 木須西）
- ・古賀 正（亡母キヨ 松浦町村分）
- ・丸田和子（亡父弥四郎 大坪町白野）
- ・末竹ハルミ（亡夫寅 瀬戸町早里）
- ・林 常夫（亡妻セキ 山代町立岩）
- ・山下百合子（亡夫清 黒川町浦分）
- ・徳田隆利（亡父益三 黒川町塩屋）
- ・緒方松枝（亡夫太一 大坪町白野）
- ・高田郁夫（亡母テイ 松浦町上分）
- ・松尾京子（亡父三九馬 新天町）



- ◆香典返しを寄付
- ・川崎静子（亡夫喜人 松浦町宿分）
  - ・池上博三郎（亡父作馬 東新町）
  - ・副島伊作（亡妻ナヲ 松島町）
  - ・松尾史郎（亡父勇七 二里町東八）
  - ・岩本ミツヨ（亡夫藤市 東山代町里）
  - ・山口春子（亡夫正信 浜町）
  - ・山口佐市（亡妹リツ 山代町久原一区）
  - ・前島和衛（亡夫平 朝日町）
  - ・福田幸雄（亡次男祐樹 二里町川東）
  - ・松本一己（亡父良市 東山代町里）
  - ・森野富江（亡夫寛 波多津町井野尾）

- ◆篤志寄付
- ・山口松次（亡長男利弘 東山代町里）
  - ・老万五千元 牧野敏昭（東京都新宿区）
  - ・参万円 伊万里露店組合（いまり秋祭り  
の折の益金の一部を）  
（累計三、三二六、三六一円）
- ◆交通遺児救済資金へ
- ・篤志寄付
  - ・九万七千七百八十三円 市連合青年団  
（いまり秋祭りの折の街頭募金を）
  - ・老万四五百円 小原木直樹（山代町久原二区  
期限満了の拾得金）
  - ・貳万円 伊万里仏教会
  - ・教育振興奨励基金へ
  - ・田尻清和（亡長男彰三 山代町楠久 香  
典返しを山代東小へ）
  - ・体育振興奨励基金へ
  - ・老万円 中島紘一（新天町六五四）
  - ・明るい町づくり推進資金へ
  - ◆大坪公民館
  - ・七万四千二百五〇円（富村助役就任祝賀会  
拾万円 犬塚良雄（新天町・病氣見舞返し  
以上、大坪地区社会教育振興資金へ）
  - ◆大川内公民館
  - ・新刊図書三六冊 慶応堂書店（公民館図  
書充実のため）
  - ◆東山代公民館
  - ・松本一己（亡父良一 東山代町里）
  - ◆南波多公民館
  - ・青木政彦（亡母タマ 南波多町小麦原）
  - ・横田敏朗（亡母ミツヲ 南波多町府招下）
  - ◆牧島公民館建設資金
  - ・中島恒雄（亡母ミ子 瀬戸町本瀬戸）
  - ◆市立図書館図書寄贈者
  - ・前田マリヨ（二里町八谷搦）
  - ・伊万里建設業協会（立花台地）
  - ・古瀬真弓（大坪町白野）
  - ・田中雄一郎（栄町）

# こどものページ

## 最優秀賞は井手さん(大川小)と真弓さん(国見中)

### 子供話し方大会で熱弁

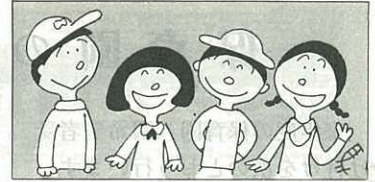


11月3日、文化の日に第14回伊万里市子ども話し方大会が市民会館で開かれました。

この日発表したのは市内各地区の子どもクラブの代表小中学生30人で、審査員の先生方や、

学校の友人約300人が熱心に聞き入る中、自分の意見を堂々と述べました。

審査にあたった先生方は、話の内容や態度など、年々レベルが高くなっていて、順位をつけ



るのに苦労しておられました。とくに、中学生の場合はほとんど差がなかったということで来年の大会が楽しみです。

審査の結果は次のとおりとなりました。

#### 団体の部

- 第1位 大川町子どもクラブ
- 第2位 大坪町子どもクラブ
- 第3位 東山代町子どもクラブ

#### 小学生の部

- 最優秀賞 井手ひろみさん(大川)
  - 優秀賞 金子 浩君 (大川内)
  - 優良賞 富田 克君 (大坪)
- #### 中学生の部
- 最優秀賞 真弓智恵子さん(国見)
  - 優秀賞 平川 福美さん(滝野)
  - 優良賞 大川内恵美さん(松浦)

市民会館で行われた子ども話し方大会

### 【小学校の部】最優秀賞 演劇クラブで得たこと



大川町小子どもクラブ  
井手ひろみ

「ひろみさん、もっと大きな声で読みなさい。国語の時間になると、わたしは先生からいつもこのように注意されました。私はごらんの通りせいが低くおまけにやせっぽちですので、どうしても大きな声が出せなかつたのです。」

みなさん、「やせの大食い」と言う言葉をごぞんじですか。わたしがその通りで、よく食べられるのですが、なかなか大きくなれないのです。

そこでわたしは、体格はこのままでも、どうかして大きな声が出せるようになりたいと考え続けました。そしてあることを思いついたのです。それは演劇クラブに入ることでした。

演劇クラブでは、小高い丘の上に登って、大自然を相手に正しい発音で大きな声を出す練習から始めました。

「あえいあえおおおおおぞらたかい。おなかから大きな声が出るように、二人一組になっての腹筋運動もしました。あせだくたくになったの腹筋運動はなかなかからくではありませんでした。

六月が過ぎてやがて七月をむかえると学校では七夕集いが計画され、演劇クラブも「牛かいたおり姫」という劇を発表しました。

牛の役でステージに立ったわたしは、日ごろの練習の成果をあげるのはこの時とばかり大きな声でせりふを言いました。「ご主人様は、こんなにいい方なのにかわいそうだなあ。」と……。

十一人の仲間が力を合わせてがんばったかいがあって、劇は拍手かっさいのうちに終わりました。

「ひろみさん、大きな声でどうとう演技できましたね。」と先生におほめのことばをいただきました。そのときの感げきを私は今でもわすれることができません。

ちっぽげな私にも、大きな声が出せたのです。人間やつてできないことは無いのだということを私は、はっきりと知りました。

そして、あんなにはずかしがりやだった私が、このごろでは人の前で話すことが楽しくさえなってきたのです。

私は、これから演劇クラブの一員として、みんなと協力ししっかり練習にはげみます。

そして、できることなら、おとなになっても演劇の道に進みたいなあと思っています。

養老院や小学校、保育園、養護学校などをいもんして、喜んでらおう。この市民会館でもすばらしい劇をして、みなさんの心をゆたかにしてあげようなど、私のゆめは大きく、大きくふくらみ続けています。